

ササユリの施設栽培における 球根低温処理期間の検討

これまでササユリの切り花は、自生種の山採りによる出荷がほとんどであり、気候やその他自然環境に左右されやすく、安定した切り花が期待できないうえ、自生地での減少も問題となっている。そのため、組織培養により増殖したササユリ球根をビニールハウス等の施設で栽培し、切り花、出荷の安定を図る。すでに他のユリ類において、低温処理により開花が早まるという報告がある。ここでは、低温処理期間が発芽、開花に及ぼす影響について検討する。

材料及び方法：ササユリ球根を30日処理区では12月11日から、50日処理区では11月21日から、70日処理区では11月1日から、90日処理区では10月12日から2～4℃暗黒下で低温処理した。各区とも処理の終了日は1月9日とし、1月10日に無加温、無電照のビニールハウスへ定植した。

結果及び考察：低温処理前後の球根の状態をみると、腐敗等もみられず球周、球重ともにやや増加していた。生存率においては、30日処理区で95%であったがその他の区において100%であり、ほぼ影響がないものと思われた。

発芽状況を見るとそのピークは低温処理期間が90日の区で2月13日、70日区で2月20日、50日区で2月29日、30日区で3月6日と低温処理期間が長いほど発芽が早くなる傾向にあった。

発蕾状況を見ると70日区、90日区において30日区、50日区と比べ約2週間早く発蕾がみられた。また、30日区では発蕾時期にバラツキが生じ、発蕾がみられない個体が最も多かった。

切り花時期は90日区、70日区、次いで50日区、30日区の順に早かった。最終の切り花日は5月19日であった。これらの時期はいずれも自然条件下での開花期よりも早かった。

以上の結果から、ササユリ球根の低温処理による生存率等への悪影響は無いものと思われた。また、処理期間については、発芽、発蕾の時期が早いこと、ほぼ安定していること等から10月中旬以降、70日以上での処理が望ましいと思われた。

なお、この試験は、国の地域重要新技術開発促進事業「自生植物の園芸化および産品化技術の開発」の成果の一部です。
(園芸部 岡室秀作)

第1表 ササユリ球根の低温処理期間と処理後の状況

処理期間	低温処理期間 (月.日.～月.日.)	10月5日		1月10日(処理後)		
		球周(cm)	球重(g)	生存率(%)	球周(cm)	球重(g)
30日	12.11.～1.9.	7.6	6.4	95.0	7.6	6.8
50日	11.21.～1.9.	7.4	5.7	100.0	7.9	7.3
70日	11. 1～1.9.	7.3	6.1	100.0	7.7	6.7
90日	10.12.～1.9.	7.5	6.3	100.0	7.1	7.1

第2表 ササユリ球根の低温処理期間が発芽、開花に及ぼす影響

処理期間	発芽率(%)						発蕾率(%)			切り花開始日 (月.日.)
	1月30日	2.6.	2.13.	2.20.	2.29.	3.6	3.27.	4.11.	4.22.	
30日	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	70.0	0.0	70.0	85.0	5.12.
50日	0.0	0.0	0.0	30.0	95.0	100.0	0.0	90.0	90.0	5. 5.
70日	0.0	0.0	25.0	70.0	100.0	100.0	90.0	95.0	95.0	4.30.
90日	15.0	30.0	90.0	100.0	100.0	100.0	80.0	90.0	90.0	4.30.